様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２３年　５月３０日現在

機関番号：３１１０４
研究種目：若手研究（Ｂ）
研究期間：2008～2010
課題番号：２０７３０３７２
研究課題名（和文）　中山間地域における「独立型社会福祉士」の（不）可能性に関する研究

研究課題名（英文）　The research on the possibility (un-) of an "independent type social worker" in an intermediate and mountainous area

研究代表者
小川　幸裕（OGAWA YUKIHIRO）
弘前学院大学・社会福祉学部・講師
研究者番号：９０３４１６８５

研究成果の概要（和文）：中山間地域で「独立型社会福祉士」として実践を展開している 28 名を対象に訪問調査及びインタビューを行い実践の可能性を検討した。その結果、（１）地域特性に応じた実践形態の選択、（２）中山間地域における新たな社会資源の創出、（３）既存のサービスや制度による対応が難しい人への柔軟かつ即応的な対応、（４）地域づくりを視野に入れた実践、（５）実践を通した社会福祉士のアイデンティティ形成、が見られた。

研究成果の概要（英文）：Visit investigation and an interview were held for 28 persons who are developing practice as an "independent type social worker" in the intermediate and mountainous area, and the possibility of practice was examined. As a result, (1) Selection of the practice form according to the local characteristic, (2) Creation of the new social resources in an intermediate and mountainous area,(3)Flexible and conformity correspondence are possible to a person with difficult correspondence by the existing service or a system,(4) Practice which put the community improvement into the view, (5) Identity formation of the social worker through practice, was seen.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００８年度	700,000	210,000	910,000
２００９年度	500,000	150,000	650,000
２０１０年度	200,000	60,000	260,000
年度			
総　計	1,400,000	420,000	1,820,000

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：社会学・社会福祉学
キーワード：社会福祉関係、地域福祉、独立型社会福祉士、中山間地域、質的研究

１．研究開始当初の背景

中山間地域では過疎化と高齢化の進行によって、サービスを必要としている住民が増える一方で、サービス提供主体が減少しサービスの選択すら困難な状況が広がっている。このような中山間地域は、「全国の約 3250 市町村の過半数に及ぶ 1750 市町村とされ、国土面積ではおよそ 70%を占める」といわれている。

このような状況の中、利用者の尊厳ある地域生活を支援する専門職として社会福祉士への期待が高まっている。しかし、1987 年に名称独占の国家資格として誕生してから 20

年が経過したにもかかわらず、“顔が見えない専門職”との揶揄や、「社会福祉の業務が見えにくい」いった批判がある。社会福祉士の社会的認知が低いのに加え、専門職としての有用性を明らかにする研究も少ない。

社会福祉士の社会的認知が進まない背景には、名称独占の業務であるため業務を明確にすることができず、専門職としてよりも福祉施設に雇用される一職員として働かざる得ない現状がある。

これらの現状に対して近年、地域特性に応じ柔軟かつ創造的な実践を展開している社会福祉士として「独立型社会福祉士」の実践が広がりを見せている。「独立型社会福祉士」とは、既存の福祉サービス提供機関や行政に所属しないことによって、様々な外的要因によって判断をゆがめられることがなく、利用者支援の全てのプロセスにおいて最大限の自由裁量を獲得し行使できる立場に自らを位置づけることで、地域を基盤とした本来的なソーシャルワーク実践を展開できる新たな相談実践の形態といえる。

「独立型社会福祉士」については、全国的動向などがアンケート調査などでは整理され始めているが、全国の中山間地域の実践を訪問調査し、地域特性に応じた実践の分類・検証や、独立するプロセスに焦点をあてたインタビューデータの質的研究は初である。

２．研究の目的

高齢化や過疎化によって福祉サービスが行き届きにくい中山間地域において、地域特性に応じてサービスの創出やコーディネートを柔軟に行うことができる専門職が求められている中、「独立型社会福祉士」はこれらの期待に応える実践であると考えた。

これまでの研究から、中山間地域における「独立型社会福祉士」の実践には、①中山間地域における社会福祉士の有効性、②中山間地域の活性化に向けた地域づくりシステムの構築、③社会福祉士のアイデンティティの確立といった可能性を含む実践であるとの仮説を得ることができた。そこで、本研究では「独立型社会福祉士」への全国的な訪問調査を通して、中山間地域における「独立型社会福祉士」の実践の可能性だけでなく不可能性の視点から、①～③の仮説を検証することで、社会福祉士の今後の展望を提示することを目的とした。

３．研究の方法

（１）調査対象：中山間地域ですでに独立し実践を展開している「独立型社会福祉士」28名。

（２）調査方法：インタビュー調査は調査対象者の実践地域を訪問し事務所またはプライバシーが確保できる喫茶店などで行った。インタビューは、半構造化インタビューを用いた。インタビューの内容は、①独立するプロセスにおけるジレンマ経験について、②現在の実践と課題について、③「独立型社会福祉士」として実践する上で意識していること、④地域特性に応じた実践について、⑤課題と今後の展望について、を中心にインタビューした。不明確な点は確認したが、話の流れを重視するよう意識して行った。インタビューはそれぞれ、1回1時間半から2時間実施した。また、実践基盤となる中山間地域や事務所を訪問し、実践内容と地域特性についても調査を行った。インタビューでは、不明な点があっても、話の流れを重視し、その意味合いのまま受け止めることで、対象者の語りを引き出すよう注意をした。

（３）分析方法：分析方法は、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ（以下、M－GTA）を用いた。M－GTAは「社会的相互作用に関係し人間行動の説明と予測に優れた理論であることが期待」されており、本研究は、第一に調査対象者となる「独立型社会福祉士」の職域がヒューマンサービス領域であること、第二に、理解のしやすさ、分析ワークシートなどの具体的手順、結果の応用を含めて検証であるという立場が明示されていたことによること、第三に「独立型社会福祉士」の独立するプロセスを明らかにすることを試みるものであることから、M－GTA法を採用することとした。

（４）分析手続き：まず録音をしたデータはすべて逐語録に起こし、それを基に時系列に沿って活動や意識の変化を整理した。作業効率を高めるため質的データ分析ソフトMaxqda2010を使用した。分析は1行ずつ読みまとまりごとにコード化を行い共通する概念名を生成した。そして、概念名、定義、コードとデータの一部、解釈を記載し、概念生成と解釈を繰り返し分析ワークシートとしてまとめた。

（５）倫理的配慮：インタビューを依頼する際には調査の目的を伝えるとともに、可能な限り事前にインタビューの依頼文書をはじめ質問項目やこれまでの調査結果などを送付し調査内容について確認をとった。また、インタビューの際には、再度研究の目的および話せる範囲で構わないこと、プライバシーの厳守について伝え、データの扱い（録音・逐語記録・分析手順と方法・結果の公開・論文化）については文書および口頭で説明し、了解が得られた場合に承諾書に署名しても

らいインタビューを開始した。

４．研究成果

（１）「独立型社会福祉士」の実践形態の分類として、①成年後見型、②居宅介護支援型、③講師業型、④地域貢献型、などが見られた。これらの実践形態は、実践者の思いや志に加えて、地域特性やニーズに応じて形態が選択されていた。しかし、一つの事業形態だけでは安定した収益を確保することは難しいため、多様な事業を並行し展開されていた。そのため、現時点において、「独立型社会福祉士」固有の実践形態を形成するには至っておらず、明確な分類は難しい状態であった

（２）中山間地域における「独立型社会福祉士」の有効性として、①自らの生活圏が実践地域と重なるため、地域ニーズを把握しやすく、同一地域の生活者として問題を共有しやすい、②サービスや社会資源が乏しい中山間地域における独立は地域の新たな社会資源の創出となる、③既存の組織で雇用される社会福祉士では対応が困難であった、サービスや制度が行き届かない人に対して、柔軟かつ即応的なサービスの提供や創出などの対応が可能である、などがみられた。残された課題として、①地域ニーズに対応した新たなサービスの創出などの事業を収益につなげていくことが難しい、②事業継続のための収益事業に重点が置かれやすく、収益が見込めない事業とのバランスを図ることが難しい、③中山間地域で独立する社会福祉士が少ないため、ネットワーク形成が難しく相互チェック機能やサポート体制が脆弱、④非倫理的実践の予防に向けたリスクマネジメントが未整備、などの点がみられた。

（３）中山間地域における「独立型社会福祉士」の実践は、既存サービスの提供やコーディネートだけでなく、地域ニーズに応じて多様なサービス（例えば、居宅介護支援・移送サービス・高齢者（障害児）デイサービス・ホームヘルプサービス・相談援助など）の創出を行っていた。その結果、地域にサービス事業所が増えサービス選択を可能にするだけでなく、地域で生み出したサービスを地域で消費する環境を作り出していた。しかし、このような地域づくりを視野にいれた実践を意識している「独立型社会福祉士」は、今回調査を行った28事例中5事例であり、日々の実践が結果的に地域づくりにつながっている事例が多くみられた。これらのことから、中山間地域における「独立型社会福祉士」の実践は、地域づくりを促進する可能性を示唆するものの、「独立型社会福祉士」の専門性として地域づくりを位置づけることは困難であることが明らかとなった。その背景には、独立年数が浅い社会福祉士は、安定した収入の確保が困難であることから、収益が見込みにくい地域づくりを目的とした事業を展開する余裕がないことが伺えた。今後は、収益を安定的に確保できる事業モデルの構築や、地域づくりを視野にいれた実践が「独立型社会福祉士」の理念や志として意識される研修システムやサポートシステムの構築が求められる。

（４）独立するプロセスに焦点を当てたインタビューデータの分析から、社会福祉士のアイデンティティの形成プロセスの提示を行った。分析の結果、以下の全体像が得られた。概念を「　」、サブカテゴリーを［　］、コアカテゴリーを【　】の記号を用いて表記している。独立を選択する過程にみる社会福祉士のアイデンティティ形成プロセスは、【現実の支援自己と理想の支援自己との葛藤】の中で〈ジレンマの蓄積〉から自らの〈限界性の認識〉が促され、現場から〈一時離脱〉することで、【問いかけの保持を軸とする価値バランス】というアイデンティティが形成されていた。このプロセスにおいて特に注目されるのは、【問いかけの保持を軸とする価値バランス】である。これは、現場におけるジレンマの蓄積を契機に、一時的にジレンマから離れることで専門職としての価値を再構築するとともに、一生活者としての個人的価値を醸成していくプロセスである。そして、両者の価値を問い続けることができる実践形態として「独立型社会福祉士」という新たな社会福祉士の実践スタイルが選択されていた。以上から、社会福祉士のアイデンティティ形成には、専門的価値と個人的価値の異なる価値バランスを保つこと、問い問いとして保持できる環境整備の必要性が示唆された。具体的な環境整備の内容や項目については今後の検討課題となった。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１件）
①小川幸裕、社会福祉士の独立過程におけるジレンマ経験に関する質的研究－独立型社会福祉士へのインタビューから－、北海道地域福祉研究、査読有、第14巻、2011

〔学会発表〕（計６件）
①小川幸裕、中山間地域における『独立型社会福祉士』の現状と課題、北海道地域福祉学

会第15回研究大会自由研究発表、2008年712日、北星学園大学にて

②小川幸裕、「現場」での「ジレンマ体験」を通した独立型社会福祉士のアイデンティティ形成プロセスー社会福祉士が独立する過程に着目してー、第47回北海道社会福祉学会発表、2009年2月28日、北星学園大学にて

③小川幸裕、「独立型社会福祉士」へのインタビューを通じて、山口県社会福祉士会独立型社会福祉士委員会、2009年3月28日、周南市市民会館にて

④小川幸裕、地域における『独立型社会福祉士』の実践の可能性と課題ー社会福祉士が地域で求められる役割ー、第17回日本社会福祉士学会（熊本大会）発表、2009年5月31日、熊本交通センターホテル３F大ホールにて

⑤小川幸裕、独立型社会福祉士に見る社会福祉士の課題と展望、第18回長寿研究会、2009年10月18日、青森市民ホールにて

⑥小川幸裕、地方都市における独立型社会福祉士の課題と展望、道南社会福祉セミナー、2010年9月25日、函館市青年センターにて

〔図書〕（計０件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
小川　幸裕（OGAWA YUKIHIRO）
弘前学院大学・社会福祉学部・講師
研究者番号：９０３４１６８５

(2)研究分担者
なし

(3)連携研究者
なし